



青少年赤十字だより 第25号

JRCとやま

「まもるいのち ひろめるぼうさい」と題した青少年赤十字防災教育プログラムが、今、私の机上にあります。その表紙には、東日本大震災という未曾有の哀しみの中から生き抜いていこうと立ち上がる少女のイラストが描かれています。その眼差しの凛とした美しさと静かな決意に満ちた佇まいに心惹かれます。

私たちの祖国・日本には四季の移り変わりがあり、自然豊かな美しい国土に恵まれています。地震や津波、台風、豪雨、雷、竜巻、大雪、火山噴火など、多くの災害に見舞われる環境でもあります。そんな中、平成二十三年三月十一日の東日本大震災を教訓として、日本赤十字社が「防災・減災」に向けた活動を積極的に推進しています。



富山県青少年赤十字指導者協議会

会長 竹内 昌美

(射水市立金山小学校長)

活用してこそ価値がある 青少年赤十字防災教育プログラム

その一つの柱として、多くの方々の叡智を結集して、本プログラムが作成され、平成二十七年に全国の小・中・高等学校に配布されました。

将来起こり得るいろいろな自然災害について正しい知識をもち、自ら考え、判断し、危険から身を守る行動がとれるように、そして一人でも多くの命が助かるようにとの尊い願いがこのプログラムの根底にあることを感じます。

また、青少年赤十字の態度目標「気づき、考え、実行する」につながるように児童生徒が主体的に取り組み、知識と行動力を獲得することと、他者への思いやり、優しさやいのちの大切さを合わせて学ぶことができるプログラムとなっています。ページを繰れば、DVD(映像)と連動した指導案とワー

クシートで構成されており、電子データとして付属のCD-Rにまとめられ、今すぐにも授業で使用できるように工夫されています。もちろん、各校の実情に合わせてアレンジして活用すれば、より一層効果的なことは言うまでもありません。

本プログラムの実際の普及・活用を図るべく、全国各地で研究会が開催されています。富山県でも、先の二月十日(水)に教育関係者八十四名の方々のご参加のもと、愛知県支部・手島英樹氏を講師として、ワークショップ形式にて研究会を開催いたしました。ご参加の先生方には、その利便性に刮目していただけたものと私は確信しています。

教育現場には、三学期になると各方面からいろいろな研究の紀要が届きます。せっかくなので貴重な本プログラムがそうした多くの書類に埋もれたり、担当者の棚で眠ってしまったらといううなことがないようにと願っています。

生かしてこそその「宝の山」ではないでしょうか。

結びになりましたが、青少年赤十字活動を支援してくださった全ての皆様へ深く感謝申し上げますとともに、今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

平成二十八年度JRC活動計画

五月	指導者協議会 理事会・総会(日赤県支部) 平成二十八・二十九年度 活動推進校指定 トレーニング・センター指導者養成講習会(東京都)
六月	全国指導者協議会総会(東京都) 第三プロック指導者協議会長及び支部担当者研究会(岐阜県)
七月	全国賛助奉仕団協議会(東京都)
八月	リーダーシップ・トレーニング・センター(砺波市)県下小・中・高等学校の青少年赤十字メンバーが集まり、二泊三日を共同で生活する体験学習です。チャイムや指示がないので自分で考えて行動することによって自主性を育てます。
九月	指導者協議会 理事会(日赤県支部)
十月	平成二十八年度青少年赤十字国際交流事業(富山県内) 平成二十八年度青少年赤十字国際交流集会(東京都)
一月	指導主事対象 青少年赤十字研究会(東京都) 青少年赤十字活動研究会(富山市) 教職員を対象として、広く青少年赤十字活動を学び、普及することを目的とした研究会です。
三月	高校生対象 スタディー・センター(山梨県) 高等学校青少年赤十字活動の中心となるリーダーの養成を図ります。

南砺市立井波中学校 城岸 毅 校長 全校加盟	砺波市立庄川中学校 笹島 康代 校長 全校加盟	入善町立入善西中学校 谷川 真 校長 全校加盟	入善町立飯野小学校 松田 博昭 校長 全校加盟
南砺市立平中学校 野見 嘉浩 校長 全校加盟	砺波市立般若中学校 川岸 直紀 校長 全校加盟	滑川市立東部小学校 深川 善弘 校長 学年加盟	

新規加盟校



日本赤十字社富山県支部が移転しました

これまで富山県支部として利用してきた建物は、昭和48年に建設され、築40年以上が経過し、耐震化対策が急務となっております。

一方、平成4年に建設された富山県赤十字血液センターは、広域事業運営体制の構築を目指して検査・製剤部門が北陸三県で集約されたため、余裕スペースの有効活用が課題となっていました。

これらのことから、富山県赤十字血液センターの余裕スペースに富山県支部が入居し、平成27年11月24日(火)からは下記において業務を開始しております。

今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

日本赤十字社富山県支部

新住所 〒930-0821 富山市飯野26-1

電話番号 076-451-7878

FAX番号 076-451-6872

業務開始日 平成27年11月24日(火)から

発行・編集

富山県青少年赤十字
指導者協議会
日本赤十字社富山県支部

〒930-0821 富山市飯野26-1
TEL 076-451-7878 FAX 076-451-6872
<http://www.toyama.jrc.or.jp/>

青少年赤十字加盟校状況 (平成28年3月31日現在)

校種	校数	メンバー数
幼稚園・保育園	14園	1,346名
小学校	140校	30,553名
中学校	75校	26,233名
高等学校	15校	1,272名
特別支援学校	5校	242名
計	249校	59,646名

青少年赤十字活動研究会

二月十日(水)、富山県総合教育センターにおいて、平成二十七年青少年赤十字活動研究会を県教育委員会と共催で開催しました。

研究会へは県内の小・中・高等学校等教員八十四名が参加し、日本赤十字社が作成したプログラムの活用法について理解を深めました。

ここに、当日ご説明いただいた日本赤十字社愛知県支部手島英樹青少年係長(愛知県教委からの派遣教員)による「青少年赤十字防災教育プログラム活用セミナー」の概要をお伝えします。

〈第一部〉

これからの子どもたちのために必要な力

残念ながら、東海地域では近い将来必ず巨大地震が起こると言われています。愛知でも今、防災が喫緊の課題になっています。

ちよつと考えてみてください。あなたは小学生です。自宅にいるとき大地震が起こりました。祖



父と、足の悪い祖母と一緒にいます。津波の危険性があるため、避難所に行かなければなりません。祖父は「先に逃げなさい」と言います。あなたは先に逃げる

ことができますか？ あなたは被災者です。自宅が半壊してしまいました。備えてあった水や食料を持って、家族全員で避難所に逃げます。しかし、他の避難者は何も持っていませんでした。あなたとあなたの家族だけ、水や食料を出して食べる

ことができますか？

あなたは避難所になった体育館で受付をしています。大勢の避難者の中、かわいい子犬を連れて人が、「私の唯一の家族なんです。避難所の中に入れてください」と願います。あなたはその子犬を入れますか？

これらは、阪神淡路大震災、東日本大震災のときに、被災者に突きつけられた課題です。しかも、すぐに答えを出さなきゃならない。つまり、その場ですぐ判断して、実行に移さなきゃいけない。災害に限らず、普段から考える力を養うことは、子どもたちには絶対大切なことです。何故なら、これだけ機械化が進んで、外国から安い労働力が入ってきたならば、今後子どもたちがやってくる仕事は「判断する仕事」だからです。いろんな情報を集め、判断し、決断できないと、これからの社会を生き抜いていけないでしょう。

富山ではあまり災害への危機感はないというこ

JRC防災教育プログラムの特長

- 地震・津波・暴風雨・雷・竜巻・雪・火山・土砂など、様々な災害の危険性について学べる生々しい映像を収録。
- 一つ一つの映像が短く、ワークシートはワード・太郎データで収録されているのでアレンジしやすい。
- 防災以外でも使えるグループワークプログラムを多数収録、「コミュニケーション力」「想像力」が養える。
- 「正常性バイアス」「ストレス反応」「エクスパートエラー」など、災害時のメンタルについても学べる。
- 理科、社会、保健体育、技術・家庭科、道徳など授業で使える。
- 被災者、教職員、教員が作り、文部科学省がバックアップ。

とですが、子どもたちが十年後、富山に住んでいるとは限りません。旅行先で、災害に遭わないとも限りません。富山では考えられなかった災害が起きることもあり得ます。実際、十五年前の東海豪雨でも、「まさかこんなところが」と思うような地域が水没しました。災害はいつ来るかわからないのです。

この仕事を始めて被災地に行くようになりましたが、被災者の皆さんから話を聞くと、「コミュニケーション能力は絶対必要だ」と一様に言われます。災害にうちひしがれて何も言えないでいると、自分の知らないところで知らないルールがどんどん作られてしまう。だから、自分の意見を伝え、納得してもらって、他の人たちの巻き込んで、新しい価値を作り出していかないといけない。そういう意味で、コミュニケーション能力を発揮して、自分の考えを作り出すことは絶対大事なんだよ。それから、相手が言っていることにどんな価値があるのか理解してあげる力をつけてあげることも必要なんだよ」となるほどなと思いました。

青少年赤十字防災教育プログラムには、このコミュニケーション能力を鍛えるグループワークプログラムがたくさん入っています。これは学級作



この表紙が目印です

地域奉仕団とのタイアップ事業(炊き出し)

〈中田赤十字奉仕団〉

赤十字でつながる地域活動

委員長 山谷美津子

中田小学校五年生の児童と中田赤十字奉仕団の交流活動として、平成十四年から、毎年夏休み期間

す。そんな気持ちを持った生徒は絶えません。いつも、必ず存在します。そんな高校生たちと共に活動したいというのが私の夢でした。大人だったら、無駄を省き、もっと効率的な活動を考えてしまいがちなところ、高校生の発想のユニークさや利益を追求しない誠実な行動力から教わることが多いです。

また、地域には、赤十字を信頼し、協力しようという方々がたくさんおられ、そんな皆さんに応援され生徒の活動が起きています。これも、受け皿となって支えてくださる皆さんがあつてのことだと思えます。感謝です。

また、ある日保健室を来室した生徒が突然、「先生、知つとるけ? 惣万さん、西村さん:(略)」と私がお世話になった先生方に、本校の生徒もお世話になっていたことが分かりました。各所に点在する赤十字が、つながりをもたらせてくれているなあとお会いに感謝するばかりです。

これからも、青少年赤十字活動をとおして、様々な人と出会い、様々な経験をしながら感性とresilient (returning to its original shape) 力を高め、この世の中を明るく生き抜き、生徒たちとお互いの成長を喜び合っていきたいと思えます。

中に、災害時非常炊き出し体験活動を行っています。地域の小学校の児童と共にこの活動は、子どもたちを通してその親である若い世代にも、非常時の赤十字ボランティア活動として伝承していきたい私たち中田赤十字奉仕団の責務のようにも思っています。

子どもたちは、各自がお米を持ち寄ります。耐熱性の特殊ポリ製袋(ハイゼックス)に自分の名前を書きます(出来上がりに責任をもつて)。奉仕団員の指導をちゃんと聞いて、計量器で同量の米と水をハイゼックスに入れ、空気をしっかりと抜いて、輪ゴムでとめて準備完了です。



沸騰している大なべに自分で安全に投入します。約三十分後の炊き上がりまで、近くの中央公園のゴミ拾いボランティアに取り組みます。ハイゼックスの中で炊き上がったご飯を取り出して、レトルトカレーをかけて美味しく食べています。その様子を眺めていると、こちらも自己満足度一〇〇%です。

青少年赤十字と赤十字奉仕団、赤十字のつながりを地域で持つことができる貴重な体験活動です。

〈高岡市立中田小学校〉

HOTほつとな「赤十字炊き出し体験」

五年生は、毎年夏休み、中田赤十字奉仕団の皆様

さんのご支援により全員で「災害時炊き出し」の体験を行っています。子供達は「袋でお米をゆでるだけでご飯になるの?」と少し心配そう。優しく教えていただき見事、災害カレーが完成。ほつとしました。夏にぴったりのちよつと辛めで大好評です。災害時の工夫や温かい奉仕の心を学ぶ少し「HOTな」一日です。



平成28年度 トレセン開催の お知らせ

平成28年度は8月3日(水)から8月5日(金)まで富山県砺波青少年自然の家を会場に開催します。開催案内は、5月中旬に加盟校にお知らせします。日赤作成防災教育プログラムの内容を採り入れる予定です。たくさんさんの学校から児童・生徒の参加並びに先生方のご協力をお待ちしています。

赤十字七原則エッセイコンテスト 優秀賞のご紹介

赤十字基本原則（*採択五十周年を記念して、日本赤十字国際人道研究センターが企画した「赤十字七原則エッセイコンテスト」）。多数の応募の中から、栄えある優秀賞に輝いた高岡向陵高等学校養護教諭 浦上真由美 先生の作品をご紹介します。

*「人間の生命は尊重されなければならないし、苦しんでいる者は、敵味方の別なく救われなければならない」という「人道」の原則と、それを実現するために必要となる六つの原則。「公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」

「生きていく力を学んだ 赤十字活動」



高岡向陵高等学校
養護教諭 浦上真由美

私は、高岡向陵高校に養護教諭として勤務して二十六年になります。

勤務と同時にJRCの顧問となり、同じく二十六年間のJRC活動を通して、多くの高校生や富山県内外の指導者ならびに赤十字関係者の方々と出会い、様々な体験をさせていただいています。印象に残っているのが、富山県で開催された全国献血運動推進大会への参加や、富士山のもとで全国から集まる高校生らとの青少年赤十字スタディーセンターや青少年赤十字海外代表団として

ネパールを訪れたことですが、忘れられないのがその時々に出会った人々との交流でした。良いことも大変だったことも分かち合い、励まし合いながらの活動は、私にとって活動の源だったり、エネルギーチャージの機会だったり、生きていく意欲に繋がりました。ここで、最近あった嬉しい話を紹介したいと思います。

【現JRCメンバーの話】

今年、三年生のJRC部員と一年半かけて校内でエコキャップを回収し、引き取り業者に渡すという活動をしました。引き渡す前日に計量すると五十kg。お金に換算すると五百円。（2kg十円）今やアルバイト時給八百円の時代に、放課後集まって活動して成果が五百円だとは、私は愕然としました。私は、成果や結末を想像せず、ただ生徒の活動を見守るだけでした。しかし、結果をみて、人と時間と労力をかけて活動してきた成果がこれだけか、果たして教育効果はあったのか、時間の有効活用のため指導者として別の方法を提案し、活動させるべきだったのか、少し落ち込み反省していました。十年前にアルミ缶を回収し、1kg百円で回収してもらいましたが、その時の苦労をすっかり忘れ、また同じ失敗をしてみました。思ったのです。

しかし、私は正反対で、生徒はとてさわやかでした。真夏の暑い日や雪の降る日も回収と洗浄とシールはがしを続け、「作業は大変だったけれど、快く手伝ってくれる仲間や保健委員がいたから楽しくすることができました。収益金は赤十字に寄付します。」と、さわやかに感想を話していました。大人の私の方が、高校生から誠実さを教えられ、頭が下がる思いがしました。そんな時、同じ職場の七十歳の非常勤講師の先

生が、私に突然、「五十kgかあ、すごいなあ、あんた惣万佳代子さんらみたい。一隅を照らす活動だったじゃわい。」と褒め言葉の中に、富山赤十字看護専門学校の大先輩の名前がポツと出て、しかもそれと同じ活動だと言われ、とても嬉しくなりました。

【JRC卒業生の話】

学校祭に卒業生二人が、やってきてくれました。彼らとの会話で嬉しいことがありました。結論から言うと、「先生、高校時代にJRCで、やってきたことすべてが、いろんな面で社会に出て役立つている。」と。「よかったやろー」と言いながら、私は自分自身の存在意義を確認できた瞬間でした。二人も介護現場で三交替をしながら頑張っています。勉強は出来ないかもしれないけれども、素直に人の言うことを聞き、利用者さんや上司から怒られ悪戦苦闘しながら、少しずつ成長しているようでした。A君は、勤務中に緊急蘇生の現場に遭遇し、心臓マッサージで利用者さんを蘇らせた経験があるそうです。町で起こった出来事なら、感謝をもらえるくらいすごいことだと思います。一方私は、生徒と毎年訓練していますが、実際に心肺蘇生をやったことはありませんから、彼の方が実績を積んでいます。

「これから、ケアマネージャーや管理の勉強もしていかなくては」と、やる気になっていました。高校時代は少しも勉強しなかったのに、変わるものです人間は。いろんな話を聞きながら、彼らの成長を感じ、いい癒しの時間になりました。私、いい仕事しているなと思いました。私がJRC部を継続してきた理由は、今も昔も変わらず、自分の労を惜しまず、人のために役に立ちたいという思いを持った高校生がいることで

りとか、エンカウンター的に使うこともできます。また、災害ごとに指導案やワークシートがついていますが、これらは一太郎とWordファイルでCD-Rに収録されていますので、自由にアレンジできます。たとえば、ワークシートのイラストをご自分の教室や通学路などの写真に貼り替えてオリジナルの教材を作ることができます。DVD-Rの映像は、お昼の校内放送や月曜朝会、学年集会、帰りの会などでも使えます。さらに、たとえば中学校二年生の三学期の理科で地震のメカニズムを勉強すると思いますが、DVDの映像を見れば、授業を潰さず勉強できます。今回は、先に挙げたグループワークのいくつかをやってみようと思います。

「災害時コミュニケーション」の実践 (プログラムp.79)



所持品（毛布、衣類、水、食料、お金、ゲーム機、本、薬、写真、携帯電話）のうち、必要だと思う物を話し合い、スーツケースの枠内に収まるように配置します。

毛布は、避難所にあることもあるかもしれないけれど、真冬の場合にはもつとあってもいいかもしれない。

ません。水や食料は、先ほどの例でもあったように、他の人が持っていないと出づらう場合もあります。お金は、浸水したり倒壊したりしていない店（高台など）では役に立ったという例があります。本やゲームは、何もすることがないと気が滅入るので、あれば意外と役に立ったよ、という声もあります。また、ゲーム機は、最近では写真を撮れる物もありますね。家族の写真が入っている、それを見せると避難所にいるかどうか聞くこともできます。薬は、持病のある人はともかく、持病のない人はいらぬです。ね。人、家族によって備えておくべき物は違います。物を持って行く準備ができていなかったならば、持つて行く必要はない。まずは逃げるのが大事です。だからこそ、事前の準備が必要です。事前の準備をしていけば、何も考えずにそれを持って逃げることもできますよ。ね。

「みんなで わけある」の実践 (プログラムp.72)

子どものアイデアで面白いと思ったのは、「もし学校に避難することになったら、家庭科室に鍋があるはずだ。おにぎりを解体してお粥にすればかさが増すじゃないか」というものでした。形としては災害時のシミュレーションをしているんですが、子どもの様子も見られますし、子どもの理解のために非常にいい教材だと思います。

このプログラムでは、どんな風に分けたかではなく、自分の考えが伝えられたか、誰かの価値あ



一人につき三枚、様々な条件や役割、持っている食料、家族構成が書かれた札を配布します。それを元に、限られた食料をグループで話し合っ分け合います。

る発言を理解することができたか、意見をまとめるにはどういうことが必要だと感じたか、等を評価します。ふりかえりシートもそのように作られていますので、防災に限らず、話し合いのルールや価値ですとか、そういったことを学ばせるのにも非常に役立ちます。小学生はちよつと手が入らないと難しいかな、というのが実感ですが、中高生なら、CD-Rの中のルールブックを机の上に置いて「これ見てやってごらん」で大丈夫です。学校や学級の実態に合わせて、オリジナルのルールを設定してやってみてくださいね。

「低学年」を与える防災教育

低学年向けには、「いのちをまもるためのきづき」というパワーポイントを使うといいです。青い物や四角い物などを探させたり、何のマークか考えさせます。意識することの大切さを教えることができます。また、道徳で使える、モラルジレンマを煽るお題や、作文素材なんかも収録されています。本当の支援、東北の人々が望んでいる支援ってなんだろう、ということを考えさせることもできます。愛知県など東海三県で実施している



愛知県支部作成「いえまですごろく」を体験！

『子ども新聞プロジェクト』で、のり養殖業者を取材したときの事です。工場も家も津波で流されてしまっ、一時は辞めようと思ったが、仲間にも励まされて再開したら、津波は石巻湾にあったへド口も全部持つて行っていた。だから、津波は悪いことばかりだと思っていたが、今は品質のいいのりを作れてやる気が出るよ、ということでした。震災をきっかけに新しいステップに立ち上がっている人がいるということなんです。そういうところののりを買って食べたり、東北からお取り寄せするといった、新しい支援の方法があるねという結論になりました。

最後に、愛知県支部で独自に作った防災教材を皆さんに見てもらいたいと思います。学校では避難訓練をしますが、学校で被災するとは限らない休みの日に、子どもが一人でいるときに被災したら、安全に家族に会う前にいっただいどんなハプニングが起こり得るか、それをすごろくにして見ました。すごろくではうまくいくことも、実際に被災したらどうなるか分かりません。そのことも説明して、ふりかえりシートを記入させます。授業での使い方としては、たとえば総合的な学習の時間の単元の導入にやっ、次はこの中に出てきたキーワードについて調べてみよう、というようにできます。

このすごろくについては今年三月に一般販売が決定し、富山県支部でも八セット購入することになりました(平成二十八年四月以降納品予定)。一セットで四、六人が同時にプレイできます。貸出を希望される学校はお気軽に事業推進課(076-451-7878)までご連絡ください。

大人に防災と言ってもなかなか準備しませんが、子どもに言われると、よし、やるかってなりますよね。子どもに防災を教える、大人に伝えるのが一番大事です。

参加された先生方の声

- 防災教育に取り組むという「難しい」「やりにくい」という意識が先に立ってしまいが、グループワークで動機付けしてから実践すると、子どもたちの気づき・考え・実行する力の育成につながると思えた
- 大変有意義なプログラムだと感じたが、現状では実施は難しい。学校安全教育として義務づけであれば良い
- 日頃なかなか目を向けられないところに目を向けられた
- 防災教育では、地震・火災等の学習だけでなく、グループワークを通して協力・コミュニケーションを体験させることも大切だということがあった
- ふるさと教育、いのちの教育と関連付けて活用

- 忘れかけていたことを思い出すことができた
- 教科と関連付けがしてある点で先生方のやる気を後押しできると思う
- 楽しく学べる工夫を知ることができた
- 体験と学びが共にあり、学びと体験の活かし方にしっかりと位置づけられているのが素晴らしい
- クラス作りで大変役立つと思った
- 「防災教育」というと、特別・大がかりな準備が必要だと思っていたが、このプログラムを活用すればもう少し簡単に授業ができると分かった
- トレセンで実践すれば良いと思う
- 防災と学校での授業、どちらもバランスよく考えられていると感じた

〈第二部〉

第二部では、平成二十六・二十七年年度の二年間、富山県青少年赤十字活動推進校に指定されている富山市立奥田中学校教諭佐藤千秋先生から、「自主的に行動し、創造的意欲に満ち、自己を敬愛する生徒の育成」生徒会活動における青少年赤十字の実践を通して「と題し、同校における活動についてご発表いただきました。詳細につきましては、別途発行「平成二十六・二十七年年度富山県青少年赤十字活動推進校研究報告書」をご覧ください。



青少年赤十字活動推進校のご紹介

活動推進校とは、学校教育における青少年赤十字の活動推進を行う、加盟校における資質向上、未加盟校への啓発のため、二カ年に渡って青少年赤十字を研究している学校です。

平成二十七・二十八年度の指定は、かたか幼稚園・保育園、射水市立射北中学校の二校です。

〈認定こども園かたか幼稚園かたか保育園〉世代交流ヒヤリマップ作成会の開催

このたび、地域のお年寄りと交流を図りながら、幼稚園周辺にある危険箇所を把握して交通安全の意識を高めました。「世代交流ヒヤリマップ作成会」では、当園の伏木校区・古府校区年長組の園児が、伏木校区交通安全母の会、高岡市、高岡警察署、伏木幹部交番、伏木地区交通指導員連絡会、高岡交通安全協会伏木支部の皆さんと一緒に、伏木地区の危険箇所を話し合い、交



作成会の様子



完成したヒヤリマップ

通安全について考え、ヒヤリマップを作成しました。園児は交通ルールのゲームを楽しんだり、参加者全員で、スピードが出やすい実際の現場に出向き、交通安全について認識を深めました。

〈射水市立射北中学校〉

世代を超えて受け継がれるJRCの伝統

本校は、射北中学校と改名した年から青少年赤十字に加盟し、今年で六十二年になります。かつては旧木造校舎を使って、JRCトレーニングセンターが実施されていたという伝統と実績があります。

現在も祖父母から親へ、そして子へ受け継がれたJRC精神が生徒たちに宿っています。海浜清掃に代表される「地域清掃」、「特別養護老人施設訪問や、作ったおはぎや花を植えたプランタをメッセージと共に同居老人宅へ届ける訪問ボランティア」などたくさんさんの生徒が参加しています。生徒会の委員会にもJRC委員があることも伝統の表れです。



特別養護老人施設訪問の様子



訪問ボランティアの様子

青少年赤十字研究会に参加して



西部教育事務所 主任指導主事 有島 洋之

研究会では、一日目に、赤十字と青少年赤十字(JRC)の成り立ちや目的、活動についての説明、講演「学校教育と青少年赤十字」、「青少年赤十字活動事例発表」等が行われました。

「青少年赤十字活動事例発表」では、埼玉県の中学校の取組が印象に残りました。JRC活動を「命を大切に教育」につなげており、「気づき、考え、実行する」というJRCの態度目標を意識し、「自己とともに大切に育てる生徒」を育成するため、学校が一丸となって取り組んでいました。

二日目には、「青少年赤十字教育等支援事業評価訪問(ネパール)」の報告、「青少年赤十字防災教育プログラム」「トレセン」等の紹介とワークショップ、グループ別討議等が行われました。

中でも、防災教材「まもるいのち ひろめるほろさい」の紹介と活用に向けてのワークショップが参考になりました。この防災教材は、日本赤十字社から全国の小・中・高等学校に無償提供されており、映像教材のDVD、指導案やワークシート等のデータも付いた質の高いものです。「命を守る教育」の推進に向けて、普及・啓発を図っていきたく感じました。

この研究会で、改めて赤十字やJRCについての理解を深めるとともに、交流することで見方・考え方を広げることができました。この学びを今後の指導・助言に生かしていきたいと思えます。